第1回 成田市文化財保存活用地域計画策定協議会 会議概要		
日時	令和8年8月4日(火)10:30～12:00	
場所	成田市役所 6階 中会議室	
出席者	事務局	成田市：日暮教育長／森田教育部参事／神﨑生涯学習課長／田野崎副参事／松崎生涯学習課文化財係長／朝倉主査／小泉主査 ランドブレイン株式会社：宮脇／安武／堀越
	委員	木村委員／小川委員／深田委員／鈴木委員／渡瀬氏（大内委員代理）／成毛氏（浦壁委員代理）／野呂委員／河野委員／川瀬委員／飯田委員
傍聴人	０人	

議題(1) 本計画の趣旨とスケジュールの共有について

～事務局より本計画の趣旨とスケジュール等について説明～

○ 文化財保存活用地域計画の概要

文化財保存活用地域計画とは、市町村における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画である。

平成30年の文化財保護法改正により制度が創設され、市区町村が計画を作成し、文化庁長官がそれを認定する仕組みである。

本計画は、指定等がされていない未指定文化財を含む地域の文化財を総合的に把握し、中長期的な基本方針を定めるマスタープランと、具体的な事業を示すアクションプランの両方の役割を担う。

市町村がこの計画を作成・実施することにより、住民、民間団体、文化財部局、庁内関係部局など、地域総がかりで文化財を守り、活かし、伝える体制の構築を図り、文化財の存続につなげていくことが期待されている。計画期間は令和10年度から10年間として取り組んでいる。

その他、本計画の特徴としては、これまでは文化財の「保存」に重点を置いた取組から「保存と活用」という新たな視点を盛り込むことで、文化財を守るだけではなく、教育や観光、景観づくりなどに活用し、地域の魅力を引き出すものとなること、また、これまで指定等に係る文化財を「個別」に保存・活用していたものから、未指定の文化財も含めて「総合的・一体的」に保存・活用を図っていくこととなる。

さらに、文化庁長官の認定を受けることで、国の指定文化財の保存修復などに対する補助事業の優先採択や補助率のかさ上げなどが可能になるなど、財政面でのメリットもある。

○ 計画の章立ての事務局案と各章のポイントについて

計画の作成のために、文化庁からはハンドブックや指針が示されており、計画の章立ての事務局案と各章のポイントについて記載している。

序章については、「地域計画の概要」として、計画の背景と目的、計画期間、文化財の定義などを記載する。

次に、「第1章 文化財の概要」として、成田市の自然・地理的環境や歴史的背景などを記載する。ポイントとしては、第3章につながる歴史文化の特性や、文化財の保存・活用に関連する成田市の基本的な情報を記載する。

「第2章 文化財の概要と特徴」として、指定や未指定の文化財の概要や特徴、把握調査の概要として、これまで実施してきた文化財の把握状況について記載する。市史や報告書など、現時点である資料の中で整理し、今後の課題などにつなげていくものになる。本計画を作成する1年の間で調査を行うものではない。

続いて、「第3章 歴史文化の特性」として、これまでの内容を踏まえて、本市の歴史や文化を語る上で必要な地域らしさを整理して記載する。事務局案としては、5つに分けている。

続いて、「第4章 歴史文化に関する将来像と方向性」として、文化財の保存・活用を推進する上で本市が目指す将来像とその方向性について設定する。

「第5章 文化財の保存・活用に向けた課題と方針」として、先ほどの第4章の方向性に沿った課題と方針を記載する。計画書の最も重要な部分であり、「課題」→「方針」→「措置」という対応となるよう設定する。本日のワークショップにおけるさまざまな意見を参考にさせていただきたいと考えている。

この第4章、第5章がマスタープランに当たるものであり、次の第6章がアクションプランとして具体的な事業を記載する措置となり、実施時期や実施主体などを明記する。

「第7章」については、「文化財の一体的な保存・活用」ということで、関連文化財群を設定し、それに関する課題・方針・措置などを記載する。第6章の措置を効果的に実施するために、第3章の歴史文化の特性に基づいたまとまりとして文化財を整理する。

「第8章 文化財の保存・活用に向けた推進体制」として、本計画の実施主体などについて記載する。

○ 本協議会の目的について

文化庁の指針として、文化財保存活用地域計画の作成に当たっては、市民等からの意見をできる限り確認することが求められている。本市では、本協議会及び成田市文化財審議委員会をその機会と位置付け、各会議で挙げられた意見を整理・分析した上で、各種検討内容に反映していく。

計画の作成は事務局で行っているが、委員の皆さまには、地域計画の事業を推進していく一員として、それぞれの立場から、成田市の文化財の保存・活用に向けたアイデアや意見などをいただきながら、計画書の内容について協議したいと考えている。

○ 計画の作成スケジュールについて

今年度3回、来年度1回を予定している。第1回が本日、第2回は10月頃を予定しており、歴史文化の特性を踏まえた将来像の確認や計画骨子案をお示ししたいと考えている。第3回は3月を予定しており、素案や関連文化財群について意見をいただきたいと考えている。第4回は来年の7月を予定しており、計画案の最終確認ということで書面開催を予定しており、8月末に文化庁へ提出し、12月認定を目指すという流れである。

続いて、本計画全体の工程表についてである。

本日の協議会を踏まえて、文化庁との協議となる。ここでは計画の進捗状況について、オンライン形式で報告を行う。その結果を踏まえて、次回の協議会では骨子案を共有し、その内容を踏まえて市の文化財審議委員会に報告する流れとなる。最終的には令和9年12月認定を目指すという流れである。

○ 計画（ビジョン）について

文化庁協議については、直近で8月17日にオンライン形式で行うので、現在作成中の第3章までを報告し、助言をいただくものになる。

なお、文化財の定義や歴史文化の特性については後ほどご説明させていただく。

質疑応答

○ 未指定文化財の把握状況について

・ 未指定文化財の把握について、現時点でどのような進捗となっているか。（深田委員）

→ 未指定文化財の把握については、成田市から既往の調査報告書等を拝借し、対象となる文化財の洗い出しを進めている。なお、本計画では、地域の歴史文化の中で守られてきた後世に残すべきものを「文化財」

と定義している。（事務局）

議題（2） 成田市の文化財に関する取組みの課題整理に向けた意見交換について

～事務局より、協議の進め方について説明し、ワークショップ形式での意見交換を行った。～

○ WS の進め方について

ワークショップでは、まず「成田市の好きなところ・お気に入りの場所」をテーマとして、各グループで自己紹介及びアイスブレイクを行う。続いて、「成田市の文化財に関する取組みの課題」をテーマとして、成田市の文化財の概要及び歴史文化の特性（案）について説明した後、意見交換を実施する。意見交換は、事前に記入いただいた検討用シートの内容共有、テーマに関する議論の深掘り、意見の取りまとめ及び発表準備の3段階で進める。

○ テーマ①「成田市の好きなところ・お気に入りの場所」

各グループ内で、一人ずつ自己紹介とともに、事前に検討用シートで記入いただいた「あなたにとっての成田市の魅力」を教えていただきたい。なお、本テーマはアイスブレイクであるため、歴史的・文化的資源に限らず、個人的な好みを自由に記入いただいて構わない。

○ 成田市の文化財の概要及び歴史文化の特性（案）について

【成田市の文化財の概要について】

本計画における「文化財」とは、「地域の歴史文化の中で守り伝えられてきた後世に残すべきもの」と定義し、国・県・市による指定等を受けている文化財に加え、指定等を受けていない未指定文化財についても対象とする。なお、文化財保護法に規定される文化財は、「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」及び「伝統的建造物群」の6類型に加え、文化財の保存技術及び埋蔵文化財に分類される。

あわせて、市内には国指定文化財8件、国登録文化財10件、国選択文化財1件、県指定文化財29件、県登録文化財1件、県選択文化財1件、市指定文化財58件があり、未指定文化財についても現在調査を進めている。

【成田市の歴史文化の特性（案）について】

本計画では、成田市の歴史や文化を語る上で重要となる視点を「歴史文化の特性」と位置付け、文化財の保存・活用に向けた前提となる考え方として整理する。歴史文化の特性とは、地域がどのような環境や背景のもとで成り立ち、どのような文化財や文化、産業が育まれてきたのかを総体として捉える考え方である。

今回は、現時点で整理している5つの特性について紹介する。

① 下総台地と豊かな水が育んだ人々の暮らし

成田市は広く平らな下総台地と豊かな水環境に恵まれ、約3万年前から人々が暮らしてきた地域である。縄文時代には海が現在よりも内陸まで入り込み、豊かな自然の恵みを受けながら集落が形成された。また、川や水辺を利用した交流も盛んで、古くから人やモノ、文化が行き交う土地であった。

② 地域勢力の統治と仏教文化

成田市は古代において東国へ向かう交通の要所として発展した。また、仏教文化の広がりとともに大慈恩寺や龍正院などの寺院が建立された。中世には大須賀氏をはじめとする地域の有力者が土地を治め、寺院を保護しながら地域の発展を支えてきた。

③ 成田山信仰と門前町の発展

成田山新勝寺への信仰が全国に広がったことで、多くの参詣者が訪れるようになった。それに伴い宿や商店が集まり、農村地域であった場所が門前町として発展した。さらに鉄道の開通によって参詣者が増加し、現在も日本有数の参拝地として親しまれている。

④ 古代より続く牧場から日本の空の玄関口へ

成田周辺は古くから馬を育てる牧の地域として発展してきた。明治時代には日本の畜産を支える拠点となり、新しい技術や知識が導入された。その後、成田国際空港の開港によって、日本と世界を結ぶ空の玄関口として大きく発展している。

⑤ 成田に根付く人々の祈りとまつり

成田祇園祭をはじめとする祭礼や行事が現在まで継承されており、五穀豊穣や家内安全、安産などを願う民間信仰も地域に深く根付いている。また、伝統芸能や年中行事は、人と人とのつながりを育みながら地域文化を今日まで伝えている。

歴史文化の特性まとめ

これらの歴史文化の特性は、個々の文化財を個別に捉えるものではなく、それぞれのストーリーが現在の成田市の姿にどのようにつながっているのかを理解するためのものである。本計画では、これらを「地域らしさ」「成田市らしさ」を表す視点として位置付けていく。また、今後検討を進める関連文化財群の設定などにも活用していく予定である。

○ テーマ②「成田市の文化財に関する取組みの課題」

続いて、文化財の保存・活用に関する課題について意見交換をお願いする。成田市には建造物、伝統芸能、古墳、古文書、仏像など多様な文化財が存在するが、それらを守り、次世代へ継承していくためには様々な課題がある。老朽化、担い手不足、予算、周知不足、観光との両立などの課題も想定されるため、「保存・修理」「活用・公開」「担い手・体制」「周知・連携」「観光・まちづくりとの両立」などの観点から、成田市の文化財に関する取組みの課題について意見をいただきたい。

※ワークショップの取りまとめについては別紙参照

○ 各班の発表

【A班の発表（鈴木委員）】

- 文化財に関する取組みの課題について、A班では総合的な博物館等の検討が議論の大きな柱となった。
- 文化財の保存・修理に関しては、専門の方に見ていただくことが重要であるが、助成金の問題などもある。また、県に申請する際には、人事異動で担当者が変わると前年と職員の対応が全く違うこともあった。
- 地域のお祭りについては、成田中学校でお囃子を教える繋がりなどがあることで、地元に帰った際に地域のお祭りに参加するきっかけとなるのではないか。
- 観光とまちづくりの視点では、まちづくり協議会が町内に色々存在しているが、それらをどのように活かすかという課題や、文化財を守りながら外国人の受け入れなどもどう行っていくかという課題がある。
- 町並みの景観については、仲町で建物のセットバックが実施された際は、その建物の柱を何本か残せば、市の方でいくらか出していただけるといった支援もあった。そういった話も含めて、観光プロモーション課や観光協会の方で、文化財と絡めてまちづくりを取り組むことができると良いと思う。
- 文化や歴史は、SNS やインターネットを活用してどんどん発信していくべきである。

・全体を通して、個人的に推すのは博物館の検討である。成田山霊光館や米屋の博物館、航空科学博物館とは別に、市内の文化財を集約した博物館ができれば、新勝寺周辺を訪れた際にまずはそこに行くというまわり方ができる。

【B班の発表（深田委員）】

・B班では、文化財の担い手に関する問題が、一番大きな議論となった。特に祭礼については、担い手不足の要因の1つとして、高齢化が考えられる。また、成田市特有の背景として、成田空港の機能強化に伴い移転を余儀なくされた場合に、地域の祭礼が維持できなくなっていくケースが見られる。無形の文化財が数えるほどに減っており、それらをこれからも維持できるかどうかという現状である。
・次に、学校教育との繋がりについての意見も多くあがった。文化財を材料とした教育活動を積極的に取り入れていった方が良いという意見が出た。
・また、身近な文化財について知る機会を増やすためには、その土地との繋がりも重要である。成田で生まれ育っていなくても、何らかの縁があって成田と結びついている人たちもいる。そういった人たちを含めた担い手の育成が、課題になってくるのではないか。
・加えて、A班とも重複する話題だが、博物館のような集中的な施設の必要性は議論としてあがった。これは建物だけでなく、情報発信していくための司令塔のような役割も必要なのではないかと考えている。
・また、未指定文化財の活用においては、特に貝塚や古文書などを維持・管理していくことも含めて、課題は多いのではないかと考えている。

【事務局よりコメント】

・今回は、委員の皆様それぞれのお立場から、文化財に直接関わる方々や行政の立場など、多様な視点からご意見をいただくことができた。今回挙げていただいた課題やご意見は、今後の計画検討における重要な基礎資料となるものである。
・今後は、今回いただいたご意見を踏まえて計画の骨子を整理し、次回の協議会でお示しする予定である。その中で、各課題に対してどのような方針や事業が考えられるかといった方向性を皆様と共有し、さらにご意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えている。

○ その他

・成田高等学校では、成田山の門前町の変遷をテーマとして研究を行う教育カリキュラムを進めている。この夏には、門前町の三橋薬局などにインタビューを実施する予定である。地域を理解するうえで聞いておく事項等があればお力添えをいただきたい。（深田委員）

○ 次回開催日時（予定）

・令和8年10月下旬頃

以上

（別紙）

テーマ②　成田市の文化財に関する取組みの課題

第1回成田市文化財保存活用地域計画策定協議会　ワークシート

成田市の「文化財」を守り、伝え、活かしていくためには、どのような課題があると思いますか？

【　A　班】

テーマ	課題など
保存・修理	・保全費用 ・防災対策 歴史的建物・史跡の・老朽化・保金の修繕費用 ・防災（台風・地震・火災）対策の負担 地域行事への補助
活用・公開	市域全体への文化財事業の働きかけ 未指定文化財への評価 →新指定 デジタルツール 情報発信 未指定 ↓ 指定への働き 伝統言い伝え 口で伝える SNSの活用 成田はどうゆう町なのか一目でわかる 総合博物館
担い手・体制	担当が変わって引き継ぐこと仕組み 地元の人が祭りをやらなくなってきた 専門職の活躍 民俗行事のあたご様 定年後の方が増える 祭礼や民俗芸能伝統行事の少子高齢化による担い手不足 文化財の保護 意識希薄化 ・市が広い ・学芸員の活躍を!! 学校での地域学習の強化 担い手減少 伝承祭礼行事の継承の方法 口頭に依存 民俗文化財の継承 あたご様をまつる行事 子どもたちへの教育 民俗文化財の継承（家や地域で行われた行事等）担い手
観光やまちづくりとの両立	観光まちづくり まちなみの保全と活用 文化財の中での生活と観光客のすみ分け 開発のルール 駐車場が空かない 足りない 参道近く 活用による保金と雇用 外国人への発信 観光受入政策 仲町セットバック
周知・連携	地元人の愛着・情勢 文化をしつこく伝えるていねいに 地域行事の周知 文化全史 人の意識 人口減少の中で、文化財への興味を持たせるしくみ 外国の人への周知 多文化
その他	総合博物館が必要 市域すべてカバー 地方に行ったときにまず博物館に行く 行政の課題 地域の土産 雇用の創出 成田中の運動会は最後にお祭りにんなる

（別紙）

テーマ②　成田市の文化財に関する取組みの課題

第1回成田市文化財保存活用地域計画策定協議会　ワークシート

成田市の「文化財」を守り、伝え、活かしていくためには、どのような課題があると思いますか？

【　B　班】

テーマ	課題など
保存・修理	古文書の保存状況→調査 展示・保存施設がない（民俗資料が保存できていない）
活用・公開	史料館への交通アクセス 下総歴史資料など 史料館老朽化 中学生から体験できる場が少ない（見るきくのみ参加すること） ポケモンウォーク（ポケストップ）お地蔵さんに名アプリで興味をもつ
担い手・体制	祭礼の担い手 他所者・若者 ししまいの担い手高齢化担い手不足 祭礼を守るお金の確保 祇園祭観光客↗祭礼の担い手不足 祭礼は地元の人にむけて⇒外から参加できるのか？
観光やまちづくりとの両立	（空港との共生）祭礼・高齢化・空港拡張移転 学校現場文化財を活用・参道でのグループワーク・地域を大事に 土地に属している（移転） 土地との結びつき 身近な文化財を知る
周知・連携	〈考古学〉アラミ長沼・小さな貝塚ハブ地区クズミ地区田んぼの中にある重要性を認知してない ⇒地元に生きた文化財を認識してもらう 文化財を周知されていない（魅力は何か） 文化財への理解重要性が弱い
その他	保存がかかる財源確保お金を生み出すことも必要 学校教育 小学校→高校発達段階に応じて教えていく